

## 第1、 近況、雑感

1. 4 月、新年度が始まりましたが、やっと通った国家予算も新味がなく不満の塊で、トランプ勘税で世界中が右往左往して落ち着きのない国が増えるばかりです。世界の警察官を辞めるしかなくなったアメリカはどこへ行き、我が国の安全保障はどうなるのでしょうか。
2. 米価は少し下がったようだが、在庫があるのにこの価格なのは、農政の誤りの到達点と知ったふりをして解決しない。10 年ほど前まで張り切って無農薬米を作ってきた転作の跡地を歩きながら、この国の食料自給率 38%の維持に貢献している日本米にだけ頼るのは、すでに時代遅れではないだろうか。
3. 20 年以上前、福島からカリフォルニアに米作りに出発した“タマキ米”で有名な田牧氏から聞いた話では、日本式米作で全力あげてやっと 80ha を耕作してみたが、先方の作付面積は 25 倍の 2,000ha。空から粃米を蒔いて収穫、安くて当たりまえ。正しく関税を払って買うことにし、寿司だけは日本米で楽しんではどうだろうか。
4. 大阪・関西万博が始まったが、大失敗まっしぐらの報。車は空を泳がないが、月の石には長い行列の人気。あの山本夏彦さんがかつて奇しくも書いた「何用あって、月までも」を、行列の若い人に読んでほしいと思うがどうだろうか。
5. 先の大阪万博には大きな目玉、岡本太郎の太陽の塔があり、世界から人を集める、文字通り万国民に誇る中心点があったが。今回は資金集めと入場者集めに苦しんだ万博として記憶し、三度目のドジョウはまったく居ないことを心するべきではなかろうか。
6. アート世界に係わってきた者として、125 年前のパリ万博に活躍した、林忠正(1853-1906)というすごい美術商がいたことを知る人は少ないようなので、ここで振り返っておきたい。越中高岡出身、1878 年(明治11年)渡仏、世界中をめぐって日本画を売り捌き、結果的に 1900 年のパリ万国博覧会に日本事務局の代表として浮世絵など 800 点を日本から持ち込み、東京に西洋美術館の建設を計画したが52歳で病没。その意思を引き継いだのが松方幸次郎かもしれません。
7. 太陽の塔の岡本太郎の唯一の弟子と称することを許され、あのヒデとロザンナの「愛の奇蹟」の作詞もした中村小太郎さんは、10 年前に亡くなったが、わが余市町の農園の近くに住んでいたことを知る人は少ないだろ

う。結果的に岡本太郎に関する資料なども所有していたことから、世話人が集まって、余市町に岡本太郎記念館を創る話が持ち上がった。しかし面談した当時の建設課長あがりの町長は、「岡本太郎も次郎も知らないからその話は聞かない」。結果的に神奈川県に移って終わり。常識を欠いた首長は地方を貧しく導く例。

8. ついでに書くと、札幌市の調整区域に数百戸のトラやライオンなどの猛獣の動物園を20年間無許可で経営を今も続けさせている行政の首長たちは、夜ぐっすり眠れたであろうか、心が痛む。
9. 更に言いつのれば、駅前市街地再開発の目的で、当グループから元西友の大型ビルを引受けた筈の田舎の首長の、2年後の計画白紙撤回も財政不安だからといって認められていいものだろうか。

## 第2、 今月の報告文

- ・大阪万博「大失敗」にまっしぐら（2025.3 選択）

## 第3、 今月の再読本(最近の老いるショックに抗って)

- ・「3.11を読む」(松岡正剛、平凡社 1,980円)  
千夜千冊番外録
- ・「医学不要論」(内海聡、三五館 1,540円)  
全く不要な9割の医療と、イガクムラの詐術
- ・「我慢して生きるほど人生は長くない」(鈴木裕介、アスコム 1,430円)  
我慢しすぎて疲れてしまった人へ
- ・「世界トップリーダー1000人が実践する時間術」(谷本有香、KADOKAWA 1,540円)  
超多忙だからこそ知っている仕事を倍速で進める「思考」と「習慣」
- ・「脳のなかの水分子」(中田力、紀伊国屋書店 1,760円)  
意識が創られるとき

## 第4、 今月のことば

- 使命、すでにそれがひとつの弱点である。意識、それがすでにひとつの弱点である。(三島由紀夫)
- 持つ者、持たざる者、支配者、被支配者、強者、弱者、できる者、できない者、……。この二項対立を超え、突きぬける論理は、この世の中にはないのだろうか。(李良枝)
- 人々は生命と思考の発展にすぐれた目的をくっつけたいだろうけど、すべては束の間のうつろいやすく、はかないものだということを認めなければならない。(ジャン・ロスタン)